素盞嗚尊武健の一端（前略）

素盞嗚尊天より降り出雲の國簸の川上に到る時に啼哭の聲あるを聞く故に聲を尋ねて往き覓れば一老公と老婆とが中間に一人の少女を撫で而して哭く素盞嗚尊問ひて曰く汝等誰そ何の爲めにかく哭くや對て曰く我は國神なり號は脚摩乳我妻の號は手摩乳此の童女は是れ吾兒なり號は奇稲田姫哭く所以のものは往時に吾兒八箇の少女あり年毎に八岐の蛇の爲めに呑まれん今此の少女をも呑まれんとす免脱ん由もなし故に喪傷しと告く素盞嗚尊敕して曰く若然らは汝當に女を以て吾に奉せん耶對て曰く敕のまゝに奉らんと素盞嗚の尊は立所に奇稲田姫と化り湯津の爪櫛を爲り而して御髻に挿したまひ乃ち脚摩乳手摩乳をして八醞の酒を釀し併せて假廬八間を作り各の一口の槽を置いて而して酒を盛り以て之を待つ期に至り果して大蛇あり頭尾各八岐あり眼は赤酸醤の如し松柏背に生ひて八丘八谷の間に蔓延し頭各一槽に酒を得るに至る酒を呑んで醉ひ睡る時に素盞嗚尊は乃ち帶ふ所の十握の劔を拔ひて其大蛇を寸斷し尾に至つて劔の刃は少し缺けん其尾を割裂て之を視れは中に一劍ありたり此れが所謂草薙の劍なり　素盞嗚尊曰く是れ神劔なり吾いかんそ敢て私に以て安んじ玉わんやと乃ち天神に上獻る而して後行き將婚之處を覓む遂に出雲の清地に到り乃ち言曰吾心清清し彼處に宮を建て時に素盞嗚尊歌ひ玉ひて曰く「夜句茂多菟伊都毛夜霸餓岐菟磨語眛爾夜霸餓枳菟倶盧贈廼夜霸餓岐廻」と乃ち相與に遘合し而して兒大巳貴神を生む因て敕して曰く吾兒の宮の首は即ち脚摩乳手摩乳なり故に號を二神に賜ふて稲田の宮主の神と云ふ已にして素盞嗚尊遂に根の國に就かしめん大蛇を寸斷せし劔を號けて蛇の麤正と云ふ今石の上にあり草薙の劔は尾張國吾湯市村に在ます即ち熱田祝部掌る所の神是なりと日本書記卷の第一神代の上にあり